

平成31年1月28日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題 益田養護学校高等部園芸班が市内農家で校外実習を実施！  
～農福教連携でWIN-WINの関係を支援・構築～

(ダイジェスト)

益田養護学校高等部園芸班では今年度から、対人関係の基礎や社会性を身に付け、達成感や自信、意欲を高めるために、市内の農家に出向き校外学習を行っています。昨年秋の西条柿の収穫作業に続き、第二弾は和牛農家で飼槽掃除や給餌作業を行っています。生徒と農家が福祉力の高い農業で結び付き、win-winの関係が築けるよう支援していきます。

同校園芸班では1学期に校内ほ場作業で身に付けた力を「地域のために活かし、貢献したい」との思いから、生徒同士で話し合った結果、「地域の農家の手伝いをしたい」との結論に至り、2学期から初めてとなる校外学習がスタートしました。相談を受けた当普及部では同校を含めた関係機関と協議し、地域の振興作物で生徒たちが安全に作業できることを要件に、まずは西条柿の収穫作業に取り組むことにしました（作業日：昨年10月～11月の4日間）。



【柿の収穫作業】

初日に果樹担当職員が作業の留意点について解り易く説明した後、関係機関職員も一緒になって作業を始めました。生徒たちは校内では学習できない果樹の作業が新鮮だったので、品定めしをながら楽しく行っていました。

生徒だけでなく学校の評価も高かったことから、次の企画を練ることになり、それに次ぐ第二弾はアニマルセラピーの視点に立ち、和牛農家に協力をお願いしました。

いきなりの牛舎作業では不安や危険が伴うことから、順を追って進めることにし、①まずは先生が実際に撮影した牛舎内の動画を学校で生徒たちに見せ、②その後、西部家畜市場を見学しながら牛への理解を深め、③そして牛舎に入って飼槽掃除や給餌作業等の作業を行うことにしました（作業日：本年1月～2月の9日間）。



【牛への給餌作業】

最初は慣れない作業や環境に戸惑う生徒もいましたが、初めての牛に接しながらの作業にやり甲斐を感じ、殆どの生徒が達成感を感じていました。

今月20日の日本農業新聞によると、中央畜産会は今年から農福連携を進めることにしています。畜産は耕種農業に比べて周年で作業があり、障がい者にとって安定した働き口と言われおり、担当教諭からも「畜産との連携の可能性を感じました。」との感想を聞いています。

当普及部としては今後もこうした取り組みを発展的に継続し、就労機会が乏しい生徒と労力不足に悩む農家が福祉力の高い農業で結び付き、win-winの関係が築けるよう支援していきます。